

保護者様

北九州市立門司海青小学校
校長 緒方 美加子

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

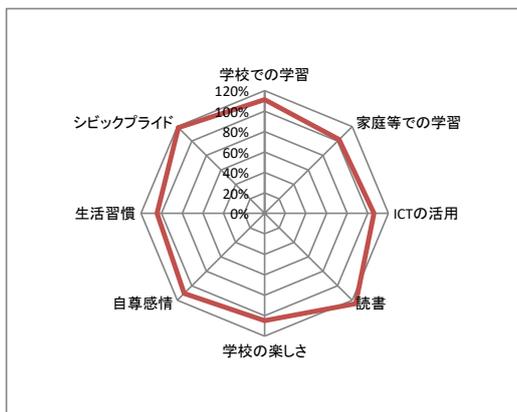
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思えます。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）
国語	知識及び理解、思考力・判断力・表現力など、評価の観点すべてにおいて、正答率が全国平均を上回っている。特に話すこと・聞くことや記述式の問題において、正答率が高い傾向がみられる。
算数	知識及び理解、思考力・判断力・表現力など、評価の観点すべてにおいて、正答率が全国平均を上回っている。特に数と計算、データの活用や記述式の問題において、正答率が高い傾向がみられる。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣では、いずれの項目においても肯定的な意見が多くみられた。特に睡眠や食事に関して肯定的な意見が多く、規則正しい習慣が身に付いている。 自尊感情では、「自分には、よいところがあると思う」や「人の役に立つ人間になりたいと思う」について、特に肯定的な意見が多く、学校・学年行事を通して得られる達成感や成就感が根付いてきている。 学校での学習では、「授業で学んだことをほかの学習で生かしている」や「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」について肯定的な意見が多く、話し合い活動を通して、主体的に学びに向かう力が着実に付いている。 家庭等での学習についての質問項目において課題がみられる。家庭との連携をさらに深めながら、家庭学習の質と量の確保の取組について見直しを行う。 シビックプライドに関して、いずれの質問項目についても肯定的な意見が多い。今後も地域とともにある学校に向けて、連携・協働の取組を推進していく。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- つまづきを早い段階で把握、気づくために、算数科における練習問題について、評価を毎時間行い共有する。
- タブレットの使用について、ノート機能、共同編集機能、フォルダ編集機能の効率的・効果的な活用の推進。
- 「分かる」、「できる」につながるドリルアプリを活用した、個別最適な学びの充実に向けた補充学習の取組。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 家庭学習の質と量の充実に向けて、個に応じた課題の工夫による、宿題のやり残し完全ゼロに向けての取組。
- スマホ・携帯電話の完全10時電源オフ100%を目指して、委員会活動を活用した定期的な啓発活動。
- 「気軽に本、身近に読書」の定着に向けての、内読（家庭読書）充実のための図書館利用率向上の取組。